

単元	I かけ算		4月(8時間)
目標	乗数や被乗数が九九の範囲を超えた場合の乗法計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(3)ア(ア)(イ)(ウ)イ】
評価 規準	(①知・技) 乗数や被乗数が0や10の場合の乗法の意味や乗法の性質、計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 乗法の性質や交換法則、分配法則を用いて、乗数や被乗数が九九の範囲を超えた場合の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 乗数や被乗数を0や10に広げた場合の乗法について成り立つ性質やきまりに関心をもち、活用しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	I	○6や12など、いろいろな数が積になる場合の乗法の式を考え、単元のめあてをつかむ。(※) 単元のめあて 九九をこえたかけ算のきまりについて考えよう	○九九の範囲を超えた場合の乗法に関心をもてるように、花びらが1～4枚の「九九の花」学習プリントを用意する。
解決していく	I	○ 7×4 の計算の仕方を考える。	○乗法の性質やきまりに気付けるように、7の段の九九表や 7×4 のアレイ図を用意する。
	I	○ 7×6 の乗数や被乗数を分けた計算の仕方を考える。	○いろいろな乗数や被乗数の分け方(分配法則)があることに気付けるように、 7×6 を 2×6 と 5×6 に分けたアレイ図を用意する。
	I	○乗数や被乗数が10の場合の計算の仕方を考える。	○積の一の位に0がつく数とつかない数の違いに気付けるように、前時までに見付けた乗法の性質を提示する。
	I	○乗数が10より大きい場合の計算の仕方を考える。	○乗法の性質を基に考えられるように、分ける線を書き込める 4×13 のアレイ図や4の段の九九表を用意する。
	I	○乗数や被乗数が0の場合の乗法の意味と積を考える。	○乗数や被除数が0の場合の乗法の意味が理解できるように、積が0になる根拠を説明する機会を設定する。
まとめ か か す	I	○「九九のもよう」作りをする。	○乗数と積の一の位とのきまりに気付けるように、円周上に0～9までの点を等間隔に付けた図を複数載せた学習プリントを用意する。
	I	○まとめのテストを行う。	
【備考】		・2年「九九のきまりを見つけよう」では、乗法九九はもちろん、10～12の段の乗法の構成や、九九表からの見付けた性質・きまり(分配法則、交換法則)について簡単に学習してきた。 ・ここでの「性質」とは乗数と積の関係、「きまり」とは交換法則や分配法則を指す。	
		(※)について 「九九の花」とは、花の中央に積、花びらに式を書くというものである。 例えば、積が12ならば花びらは 2×6 、 3×4 、 4×3 、 6×2 の4枚になる。 ただし、花びらには九九表の中にある式を書く。	

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇九九の範囲を超えた場合の乗法についての疑問点やこれから学習したいことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言③>

◇乗数と積の関係や乗法の交換法則などのきまりを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>

◇分ける線に応じて正しい式を記述している。<ノート②>

◇乗法の性質を基に、積の一の位が0になる根拠を記述したり、説明したりしている。<ノート・発言①>

◇乗数が大きい場合も、乗法の性質を基にすると積を求められることを記述したり、説明したりしている。<ノート・発言①>

◇乗法の性質を基に、積が0になる根拠を記述している。<ノート①>

◇各段の円の特徴について記述している。<ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>

単元	2 たし算とひき算の筆算		4・5月(8時間)
目標	3・4位数同士の加法・減法の筆算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(2)ア(ア)イ(イ)】
評価 規準	(①知・技) 3・4位数の加法・減法で、繰り上がりや繰り下がりのある場合の計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 2位数同士の計算の仕方を基に、3・4位数同士の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 筆算のよさが分かり、加法・減法の筆算を活用しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか む	1	○買い物の場面で、2位数や3位数の金額の2つの商品の合計金額を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 3けたのたし算やひき算の仕方を考えよう	○3位数以上の加減法に関心をもてるように、2位数と3位数の金額のお菓子カードを掲示したり、お金の模型を用意したりする。
	1	○165+272の計算の仕方を考え、3位数同士の加法の筆算の仕方を知る。	○3位数同士の加法の計算の仕方に気付けるように、位ごとの枠のある表やお金図を提示する。
解決 してい く	1	○235+168の筆算の仕方を考える。(波及的な繰り上がり)	○波及的な繰り上がりの仕方に気付けるように、束カードやおはじきを用意する。
	1	○315-194の計算の仕方を考え、3位数同士の減法の筆算の仕方を知る。	○3位数同士の減法の計算の仕方に気付けるように、「計算する位の順序」を視点として提示する。
	1	○408-279の筆算の仕方を考える。(波及的な繰り下がり)	○波及的な繰り下がりの方に気付けるように、第3時の235+168の筆算の仕方を提示する。
	1	○3位数同士の加法・減法の計算練習をする。	○繰り上がりや繰り下がりのある場合の加法と減法の計算が正確にできるように、247+195や342-168などのような繰り上がりや繰り下がりが2か所ある場合の加法・減法を提示する。
ま と 生 め か る す	1	○買い物の場面で、4位数を含んだ加減法の計算をする。	○進んで4位数を含む加減計算をしようとすることができるように、第1時のお菓子カードや1000円札の模型を用意する。
	1	○まとめのテストを行う。	
【備考】 ・束カードやお金の模型は、カリ管室にある。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇3位数以上の加減法について、疑問点やこれからしたいことを記述している。<ノート③>

◇一の位から順に位ごとに数をたせばよいことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>

◇波及的な繰り上がりの仕方を、10や100のまとまりを基に記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>

◇一の位から順に位ごとに数をひけばよいことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>

◇波及的な繰り下がりの仕方を、10や100のまとまりを基に記述している。<ノート②>

◇繰り上がりや繰り下がりの有無を判断し、一の位から正確に計算している。<ノート①>

◇筆算を用いて、合計金額やおつりを求めようとしている。<ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>

単元	3 ぼうグラフと表			5月(11時間)
目標	目的に合わせて資料を表や棒グラフに表す方法を考え、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：D(1)ア(ア)(イ)イ】
評価 規準	(①知・技) 資料を一次元表に分類整理する方法や棒グラフの読み方やかき方を理解している。 (②思・判・表) 資料を目的に応じて分類整理する方法を考えている。 (③主体的態度) 表や棒グラフのよさを見付け、資料の分類整理に活用しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○校内のけがの資料を基に、項目ごとの人数や分かることについて話し合い、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 分かりやすい整理の仕方について考えよう	○分かりやすい整理の仕方について関心をもてるように、「けがの種類」や「けがをした場所」、「けがをした時間」の中で2つに当てはまる人数を考える活動を設定する。	◇資料から直接読み取る難しさや分かりやすく整理することについて記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○校内のけがの資料の「けがの種類」の項目について一次元表への表し方を考える。	○一次元表への表し方に気付けるように、「正」の字を用いた数え方を例示する。	◇「正」の字を用いて、正確な数を表に記述している。 <ノート①>
	1	○つくった一次元表から読みとれる特徴について考える。	○一次元表に表すよさに気付けるように、「分かりやすさ」という観点を提示する。	◇手際のよさや分かりやすさ、比べやすさの観点から、表に表したよさを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○校内のけがの種類を表した棒グラフを読み取り、項目の順序について考える。	○度数の大きい順にグラフに表すよさに気付けるように、大きい順とそうでない順に並べた棒グラフを提示する。	◇度数の大きい順にグラフに表すと大きさの違いが分かりやすいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○縦軸や横軸に表されている様々な棒グラフを読んだり、一目盛りの大きさを読み取ったりする。	○棒グラフから、資料の最大や最小、一目盛りの大きさを読み取ることができるよう、様々な棒グラフを読み取る時間を確保する。	◇グラフから、資料の最大や最小、一目盛りの大きさを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○棒グラフの表し方を知り、「けがをした場所」の項目について棒グラフに表す。	○資料を棒グラフに正確に表せるように、「けがをした場所」の項目についての表とグラフ枠を用意する。	◇正確な数をグラフに記述している。 <ノート①>
	1	○学校全体の「けがの種類」や「けがをした場所」の項目について、棒グラフに表す。	○一目盛りの大きさを工夫できるように、一目盛りが2や5になるグラフ枠を用意する。	◇資料の最大値とグラフ用紙の大きさを基に、グラフの1目盛りの大きさを決めて、棒グラフに表している。 <ノート①>
	1	○2つのクラスのけがをした時間を表した棒グラフを読み取る。	○棒グラフから読み取った内容を批判的に考察できるように、一目盛りの大きさが異なる棒グラフを提示する。	◇1目盛りの大きさが異なると、棒グラフの見え方が変わることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
・ま生とかめする	1	○クラスにおける好きな教科の資料について、表や棒グラフに表し、その特徴を発表する。	○表や棒グラフのよさを実感できるように、事前にアンケートをとった回答用紙をまとめた資料を用意する。	◇進んで表や棒グラフから分かる特徴を記述している。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「ぼうグラフ」				

単元	4 わり算			5・6月(7時間)
目標	乗法の計算を基に、除法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)(イ)】
評価 規準	(①知・技) 除法の意味と計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 乗法の計算を基に、除法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 除法の計算の仕方について関心をもち、活用しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○12個のクッキーの分け方を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 同一数ずつ分ける計算の仕方を考えよう	○数を分ける場合の計算の仕方に関心をもてるように、おはじきや図を用いたいろいろな分け方を試す活動を設定する。	◇数を分ける場合の計算の仕方についての疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
	1	○12個のみかんを3人で同じ数ずつ分けたときの1人分の個数を求める場面における答えの求め方を考える。	○等分除の意味に気付けるように、12個のみかんカードやおはじきを用意する。	◇ある数を等分したときの1つ分の大きさを求める場合は除法が用いられることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
解決していく	1	○15個のみかんを1人に3個ずつ分けたときの分けられる人数を求める場面における答えの求め方を考える。	○包含除の意味に気付けるように、15個のみかんカードやおはじきを用意する。	◇ある数がもう一方の数の幾つ分であるかを求める場合は除法が用いられることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ $8 \div 2$ の式になる場面を考え、仲間分けをする。	○等分除と包含除の違いに気付けるように、8個のみかんを2人に分ける場面や2個ずつ分ける場面を提示する。	◇「1つ分の大きさ」と「幾つ分の大きさ」という違いを記述している。 <ノート①>
	1	○みかんを分ける等分除の場面から、被除数が0のとき、除数が1のとき、被除数と除数が等しいときの計算の仕方を考える。	○被除数が0のとき、除数が1のとき、被除数と除数が等しいときの計算の仕方に気付けるように、みかんカードを用意し、分ける様子を例示する。	◇ $0 \div x = 0$, $y \div 1 = y$, $z \div z = 1$ になる根拠を記述している。 <ノート②>
・ま 生と かめ する	1	○ $35 \div 7$ または $35 \div 5$ の式になる場面を考え、「わり算仲間作り」をする。(※)	○除法の場面や式について進んで考えられるように、身の回りにおける除法が用いられる場面を例示する。	◇自分なりに場面を分類したり、除法の式に表したりしている。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>
【備考】		・用語・記号 「÷」「わり算」「わられる数」「わる数」		
		(※)について 「わり算仲間作り」とは、 $35 \div 7$ または $35 \div 5$ のわり算の問題を作り、繰り返しペアになって互いの作った問題を見合い、 $35 \div 7$ の等分除か包含除、 $35 \div 5$ の等分除や包含除に仲間分けする活動である。		

単元	5 時こくと時間		6月(6時間)
目標	時刻と時間の求め方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：C(2)ア(ア)(1)イ】
評価規準	(①知・技)時刻と時間の違いや、時間、分、秒の関係を理解している。 (②思・判・表)図などを用いて、時刻や時間の求め方を考えている。 (③主体的態度)時刻や時間に関心を持ち、必要な時刻や時間を求めようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○一日の予定を基に、ある時刻から一定時間後の時刻や一定時間前の時刻を求め、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 長い時間や時こくのもとめ方を考えよう	○長い時間や時刻の求め方に関心をもてるように、一日の各活動とその時刻を表した時計の図の入った学習プリントと時計の模型を用意する。
解決していく	1	○8時30分からの20分後・40分前の時刻の求め方を考える。	○一定時間前の時刻の求め方に気付けるように、模型の時計や時計の図、数直線、筆算を提示する。
	1	○2つの時刻の間の時間を求める。	○時間を正確に求められるように、模型の時計や時計の図、数直線、筆算に加え「1時間=60分」を提示する。
	1	○時間と時間の和や差を求める。	○時間と時間の和や差を正確に求められるように、1時間(60分)の繰り上がりや繰り下がりのある問題を複数用意する。
まとめかかす	1	○ストップウォッチの読み方や短い時間の単位として「秒」を知り、「10秒(1分)あてクイズ」や「時間あてゲーム」などを行う。(※)	○「秒」や「分」の長さを実感できるように、1秒や1分の長さについて話し合う場を設定する。
	1	○まとめのテストを行う。	
【備考】 ・用語・記号 「秒」「1分=60秒」 ・準備物 模型の時計 ストップウォッチ ・2つの時刻の間の時間を求める際には、答えが○時間○十分程度とし、あまり複雑にならないように留意する。 ・日常生活の中で時刻と時間を意識できる場を設定し、習熟してからまとめのテストを行えるとよい。 ・2年「時計を生活に生かそうー時こくと時間ー」では、時刻と時間の違いや簡単な時刻や時間の求め方を学習してきている。			
(※)について 「10秒(1分)あてクイズ」とは、目をつぶり時間になったら手を挙げるゲームである。「時間当てゲーム」とは、10mを歩いて、かかった時間を当てるゲームである。このような体験的な活動を取り入れ、時間の量感を身に付けられるようにするとよい。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇模型の時計を操作しながら、時刻や時間に対する疑問を記述したり、発言したりしている。

<行動③>

◇図や数直線などを用いて、基の時刻からの加法(進むこと)や減法(戻ること)で求められることを記述している。

<ノート②>

◇時間を正確に記述している。

<ノート①>

◇正確に時間と時間の和や差を記述している。

<ノート①>

◇「秒」や「分」の長さについて、感じた量感を記述している。

<ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。

<テスト①②>

単元	6 あまりのあるわり算		6・7月(11時間)
目標	余りのある除法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)イ】
評価規準	(①知・技) 余りのある除法の意味と計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 余りのある除法を基にして、余りのある除法の計算の仕方や余りの処理の仕方を考えている。 (③主体的態度) 余りのある除法の意味や計算の仕方、成り立つ性質に関心をもち、活用しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○30枚や33枚の折り紙を6人で分ける方法を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて わり切れない場合のわり算の計算の仕方を考えよう	○割り切れない場合の除法の計算の仕方に関心をもてるように、6人グループごとに30枚と33枚の折り紙を用意する。 ◇割り切れない場合の除法の計算の仕方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○20枚の折り紙を3枚ずつ分けるなどの、余りのある除法の計算の仕方を考える。	○乗法九九を用いることができるように、 $18 \div 3$ の商の求め方を提示する。 ◇余りのあるわり算でも乗法九九を使うと求められることを記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○余りと序数の大小関係について考える。	○余りと除数の関係に気付けるように、 $\square \div 4$ の□に12~20までを当てはめた式を提示する。 ◇余りが除数よりも小さくなることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○34個のあめを6人で同じ数ずつ分けるなどの、余りのある等分除の意味や計算の仕方を考える。	○等分除の場面における余りの意味に気付けるように、6人で34個のおはじきを分ける場面を演示する。 ◇図を用いて、余りが4になる根拠を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○余りのある除法の答えの確かめ方を考える。	○乗法九九を用いることができるように、 $18 \div 3 = 6$ の答えの確かめ方を例示する。 ◇余りのあるわり算でも乗法九九を使って答えが確かめられることを記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○35人が座るための4人がけの椅子の数などの場面から、余りの処理の仕方を考える。	○答えが商と異なることの意味に気付けるように、問題場面の図を提示する。 ◇椅子を9脚にすると、33~36にする根拠を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○商が1位数で余りのある除法の計算練習をする。	○問題場面に応じて正確に余りの処理をできるように、答えが商+1になる問題や答えが商になる問題を提示する。 ◇正確に商と余りを記述している。 <ノート①>
	1	○(何十) \div (1位数)で、十の位が割り切れる場合の計算の仕方を考える。	○(何十) \div (1位数)の計算の仕方に気付けるように、ブロックや束カード、お金の模型を提示する。 ◇10の位をわった余りを1のバラとして考えればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
まとめ生かす	1	○余りのある除法の問題をつくり、解き合う。	○進んで余りのある除法の問題をつくれるように、余りのある等分除や包含除の問題、余りの処理の必要な問題などを例示する。 ◇余りのあるわり残の問題を進んでつくったり、友達の問題を解いたりしている。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。	◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「あまり」「わりきれ」「わりきれない」(※「商」は第4学年で扱う。) ・余りの表記については、「…○」ではなく、「あまり○」と記述する。			

単元	7 円と球		7月(9時間)
目標	円や球の特徴を考察し、円や球の概念や特徴を理解する。		【指導事項：B①ア(ウ)イ】
評価 規準	(①知・技) 円や球の概念、中心や半径、直径の意味や関係を理解している。 (②思・判・表) 円や球の模型やコンパスの操作を基に、円や球の特徴を考察している。 (③主体的態度) 円や球に関心を持ち、進んでかこうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○「きれいな丸作り大会」をして自分なりにまるい形を作り、「円」を知り単元のめあてをつかむ。(※1) 単元のめあて 円の特徴やかき方を考えよう	○円の特徴やかき方に関心をもてるように、自由に切ったり折ったりできる画用紙を用意する。
	1	○円の「中心」「半径」を知り、多数の半径をかいて円をつくる。	○円は中心から等距離の点の集合であることに気付けるように、中心の入った学習プリントを用意する。
解決していく	1	○円の中心の見付け方を考え、「直径」を知る。	○直径の交点が円の中心であることに気付けるように、中心の書かれていない円カードを用意する。
	1	○コンパスの仕組みを知り、いろいろな長さの半径の円をかく。	○コンパスを使って円をかけるように、コンパスの持ち方や動かし方を例示する。
	1	○円を使っていろいろな模様をかく。	○円を使って様々な模様をかけるように、2～3つの円で構成されたいろいろな模様を例示する。
	1	○折れ線と直線、折れ線同士の長さを比べる。	○折れ線を直線に書き写せるように、コンパスを使った長さの写し方を例示する。
	1	○「立体シルエットクイズ」をして「球」を知り、その特徴を考える。(※2)	○球の性質に気付けるように、球の模型や球の切り口の動画を提示する。
まとめ	1	○2点と宝のある地点との距離から宝を探す「宝さがしゲーム」をし、2点から等距離にある点の見付け	○コンパスには円をかいたり一定の長さを写し取ったりするよさがあることに気付けるように、3つの条件のある宝探しの
	1	○まとめのテストを行う。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語・記号 「円」「中心」「半径」「直径」「球」 ・第2時で使う厚紙のテープは、教科書の付録を使うとよい。 ・コンパスは夏休み中にシャープペンシル式の一括購入するとよい。 <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>(※1) について 「きれいな丸作り大会」とは、1枚の八切画用紙を好きな大きさの丸に切って、そのきれいさをグループやクラス全体で話し合う活動である。</p> <p>(※2) について 「立体シルエットクイズ」とは、球、円柱、円錐、立方体、直方体を上・下・横から見た黒塗りの平面図を提示し、どの立体か当てる活動である。</p> </div> </div>			
			評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇円の特徴やかき方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
			◇円は中心から等距離にある点の集合であることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
			◇直径の交点が円の中心であることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
			◇定規で半径を測って円をかいている。<ノート①>
			◇円や半円、1/4の円を組み合わせると様々な模様をかいている。 <ノート①>
			◇コンパスを用いて、折れ線を直線に書き写している。 <ノート①>
			◇球はどこから見ても円に見え、どこを切っても切り口は円になることを記述している。 <ノート②>
			◇コンパスを使いながら宝を見つけた根拠を記述している。 <ノート③>
			◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>

単元	8 かけ算の筆算		8・9月(11時間)
目標	2・3位数に1位数をかける乗法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(3)ア(ア)(イ)(ウ)イ】
評価 規準	(①知・技) $(2・3位数) \times (1位数)$ の乗法や筆算の意味や性質、計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 既習事項を基に、 $(2・3位数) \times (1位数)$ の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) $(2・3位数) \times (1位数)$ の乗法に関心を持ち、計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○23円の画用紙を3枚買う場面の代金の求め方を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて かけ算のかんたんな計算の仕方を考えよう	○2位数以上の乗法の計算の仕方に関心をもてるように、3枚の画用紙とお金の模型を用意する。
解決していく	1	○何十、何百の乗法の計算の仕方を考える。	○十や百のまとまりに気付けるように、10円や100円のお金図を提示する。
	1	○位ごとに繰り上がりのない(2位数) \times (1位数)の筆算の仕方を知り、筆算する。	○繰り上がりのない(2位数) \times (1位数)を正確に筆算できるように、 23×3 や 14×2 のような問題を用意する。
	1	○十の位に繰り上がりのある(2位数) \times (1位数)の筆算の仕方を考える。	○十の位と一の位に分けて計算すればよいことに気付けるように、2色のおはじきや1円と10円のお金の模型を提示する。
	1	○(2位数) \times (1位数)の計算練習をする。	○(2位数) \times (1位数)を正確に筆算できるように、 72×6 や 58×3 のような繰り上がりのある問題を用意する。
	1	○位ごとに繰り上がりのない(3位数) \times (1位数)の筆算をする。	○繰り上がりのない(3位数) \times (1位数)を正確に筆算できるように、 123×3 や 342×2 のような問題を用意する。
	1	○百の位や千の位に繰り上がりのある(3位数) \times (1位数)の筆算の仕方を考える。	○百の位と十の位と一の位に分けて計算すればよいことに気付けるように、3色のおはじきや1円と10円と100円を提示する。
	1	○3つの数の乗法の計算の仕方を考える。	○乗法の結合法則を理解できるように、計算の順序が異なる2つの乗法の式を提示する。
	1	○具体的な乗法の場面から、言葉の式の作り方を考える。	○ $(\text{一つ分の大きさ}) \times (\text{いくつ分}) = (\text{全体の大きさ})$ を基にした言葉の式を作れるように、具体的な乗法の場면을提示する。
まとめ か る す	1	○式が(2位数) \times (1位数)や(3位数) \times (1位数)になる問題をつくり、解き合う。	○進んで問題を出し合えるように、(2位数) \times (1位数)や(3位数) \times (1位数)になる問題を例示する。
	1	○まとめのテストを行う。	
評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇2位数以上の乗法についての疑問点やこれからしたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③> ◇十や百の幾つ分として計算の仕方を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇筆算をして正確に積を求めている。 <ノート①> ◇繰り上がりに気を付けて位ごとに分けて計算することを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇正確に(2位数) \times (1位数)の積を求めている。 <ノート①> ◇筆算をして正確に積を求めている。 <ノート①> ◇繰り上がりに気を付けて位ごとに分けて計算することを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇乗法の計算の順序を変えても積は変わらないことを記述している。 <ノート②> ◇ $(\text{一つ分の大きさ}) \times (\text{いくつ分}) = (\text{全体の大きさ})$ を基にした言葉の式を記述している。 <ノート①> ◇(2位数) \times (1位数)や(3位数) \times (1位数)になる問題をつくったり、友達の問題を解いたりしている。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>			
【備考】 ・(3位数) \times (1位数)の計算の仕方を追求した後は、随時、計算練習や問題づくりなどを取り入れていくとよい。			

単元	9 10000より大きい数			9月(12時間)
目標	1億までの整数の構成や表し方, 万を単位とした加減計算の仕方を考え, 進んで生活や学習に活用する。			【指導事項: A(1)ア(ア)(イ)(ウ)イ】
評価規準	(①知・技) 1億までの整数の構成や表し方, 万を単位とした加減計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 既習の整数の構成や表し方を基に, 1億までの整数の構成や表し方, 万を単位とした加減計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 1億までの整数に関心をもち, 進んで調べようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○若宮町の人口から前橋市の人口, 前橋市の人口から群馬県の人口を予想し, 数の表し方を考え, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 10000より大きい数の表し方や仕組みを考えよう	○10000より大きい数に関心をもてるように, 若宮町の人口や市内の町の数, 前橋市の人口や県内の市町村の数を提示する。	◇10000より大きい数について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	2	○日本の男性や女性の人口などの具体的な数値を基に, 一億の位までの数を読んだりかき表したりする。	○一億の位までの数を正確に読んだりかき表したりできるように, 一億の位までの位取り表を提示する。	◇一億の位までの数を正確に読んだり, かき表したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○10000より大きい数を, 1000や10000を単位にするなどの相対的な表し方を考える。	○相対的な表し方に気付けるように, お金の模型を使って100円玉10枚を1000円札に両替する場面を演示する。	◇10000より大きい数が決められた単位の幾つ分になるかを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○10000より大きい数を数直線に表す。	○数直線の1目盛りの大きさに着目して考えられるように, いろいろな大きさの目盛りの数直線を提示する。	◇一番小さい目盛りに着目して, 当てはまる数を記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○10000より大きい数の大小比較の仕方を考え, 「等号」「不等号」を知る。	○大小比較の根拠に気付けるように, 拡大した数直線を提示する。	◇数直線を用いて, 大小比較の根拠を記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○2~4位数の10倍や100倍の数の表し方を考える。	○10(100)倍するとき, 基の数の右に0を1(2)個付けばよい根拠に気付けるように, お金図やさくらんぼ図を提示する。	◇10倍とは基の数の10個分であることを基に, 基の数の右に0を1つ付ける根拠を記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○一の位に0のある2~4位数の1/10の数の表し方を考える。	○1/10するとき, 基の数の右の0を取ればよい根拠に気付けるように, 前時で求めた数の1/10の数をお金図を提示する。	◇1/10とは基の数を10等分したうちの1つ分であることを基に, 基の数の右の0を1つ取る根拠を記述している。 <ノート②>
まとめ	2	○日本の都道府県や市町村の人口を予想し, インターネットを使って調べ, 友達に発表する。	○1億までの整数の表し方を進んで活用できるように, 調べたい都道府県や市町村名と人口数とその読み方を記入する学習プリントを用意する。	◇調べた人口数とその読み方を記述している。 <学習プリント③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「二万」「十万」「十万の位」「百万の位」「千万の位」「1億」「等号」「不等号」 ・前橋市や群馬県の人口などは, 前橋市役所, 群馬県庁のHPや, 社会科のカリ管室に保管してある資料を用いとよい。				

単元	10 小数		10月(13時間)	
目標	小数の表し方や大小比較の仕方、加減計算の仕方を考え小数の概念を理解し、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(5)ア(ア)(イ)イ】	
評価規準	①(知・技) 1/10の位までの小数の意味や表し方、加減計算の仕方を理解している。 ②(思・判・表) 0.1の幾つ分を基に、小数の表し方や大小比較の仕方、加減計算の仕方を考えている。 ③(主体的態度) 小数で表すことよき気づき、進んで表したり計算したりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○1.5Lのペットボトルに入っている水のかさを測定し、その表し方を話し合い、「小数」と「小数点」「整数」を知り、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 小数の表し方について考えよう	○小数の表し方について関心をもてるように、「ペットボトルに入っている水のかさは何Lか」という問題文を提示し、1.5Lの水の入ったペットボトルとリマスをグループごとに用意する。	◇小数について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
解決していく	1	○小数を用いた、いろいろなかさの表し方を考える。	○かさを小数で正確に表せるように、10等分したLますの図と「1dL=0.1L」を提示する。	◇かさを小数で正確に表している。 <ノート①>
	1	○小数を用いた、いろいろな長さの表し方を考える。	○長さを小数で正確に表せるように、10等分したテープ図と「1mm=0.1cm」を提示する。	◇長さを小数で正確に表している。 <ノート①>
	1	○「小数第一位」を知り、0.8や1.5、2.3といった小数の数直線上への表し方を考える。	○数直線上に表した小数の根拠に気付けるように、1目盛りが0.1である数直線を提示する。	◇表した小数が0.1の幾つ分であることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○1.3、0.9、2.1、0.5、1といった、小数や1の大小比較の仕方を考える。	○整数同士の大小比較の仕方を基に小数の大小比較ができる根拠に気付けるように、「0.1の幾つ分」という視点を提示する。	◇0.1の幾つ分であれば整数同士の大小比較として判断できることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○0.6mのリボンと0.8mのリボンを合わせた長さを求める場面から、小数の加法の計算の仕方を考える。	○整数の加法の計算の仕方を基に小数の加法の計算ができる根拠に気付けるように、1.4までの目盛りのある数直線やテープ図を提示したり0.1カードを用意したりする。	◇0.1の幾つ分を基に、小数の加法の計算の仕方を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○1.2mのリボンから0.7mのリボンを使った残りの長さを求める場面から、小数の減法の計算の仕方を考える。	○整数の減法の計算の仕方を基に小数の減法の計算ができる根拠に気付けるように、1.2までの目盛りのある数直線やテープ図を提示したり0.1カードを用意したりする。	◇0.1の幾つ分を基に、小数の減法の計算の仕方を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○5.4Lのお茶と3.7Lのお茶を合わせたかさを求める場面から、小数の加法の筆算の仕方を考える。	○正しい小数点の位置で正確に和を求められるように、21.8+4.2や4.7+8などの桁数の異なる適用問題を提示する。	◇位をそろえて、筆算で正確に和を求めている。 <ノート①>
	1	○6.3Lのお茶を4.7L飲んだ残りのかさを求める場面から、小数の減法の筆算の仕方を考える。	○正しい小数点の位置で正確に差を求められるように、10.6-3.9や9.3-4などの桁数の異なる適用問題を提示する。	◇位をそろえて、筆算で正確に差を求めている。 <ノート①>
まとめる・生かす	1	○ペットボトルに入った水のかさをペアで測定し、小数を用いて表したかさとその根拠を発表する。	○進んで小数を用いて水のかさを求めようとするができるように、形や中の水のかさが異なるいろいろなペットボトルを用意する。	◇0.1の幾つ分を基に、進んで水のかさを求めたり、その根拠を記述している。 <ノート③>
	1	○ペアで測定したかさの値を用いて、いろいろなペアと4人グループをつくり、かさの和や差を求める。	○小数の加減計算の仕方の理解を深められるように、4人グループをつくることに「どちらがどのくらい多いか」または「合わせたかさは何Lか」という問題を提示する。	◇小数の式や筆算を使って、正確に和や差を求めている。 <ノート①>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号「小数」「小数点」「整数」「小数第一位」「数直線」 ・練習問題を考える際には、長さや重さなどの具体的な量を扱えることよき。 ・「まとめる・生かす」過程で用いるペットボトルは、ペアの数だけ用意しておく。また、小数第1位までの小数で表せるかさにしておく。				

単元	11 長さ		11月(11時間)
目標	道のりと距離の意味や単位の間係を理解し、巻き尺を用いて長さを測定する。		【指導事項：C(1)ア(ア)(イ)イ】
評価規準	(①知・技) 巻き尺の使い方、道のりと距離の意味や求め方、kmとmの間係を理解している。 (②思・判・表) 長いものやまるいものの長さの測定の仕方や表し方を考えている。 (③主体的態度) 長いものの長さを測定しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	2	○鉄棒の長さやくすの木の太さなどをグループごとに測定し、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 長い長さやまがったところの長さを調べよう	○長い長さや曲がった長さの測り方に関心をもてるように、1mものさしや30cmものさしを用意する。
解決していく	2	○巻き尺について知り、巻き尺を用いて鉄棒の長さやくすの木の太さなどを測定し、発表し合う。	○巻き尺を用いて正確に測定できるように、巻き尺の使い方を演示する。
	1	○「道のり」「km(キロメートル)」「1km=1000m」を知り、地図上の家から目的地までの道のりの求め方を考える。	○加法を用いた道のりの求め方に気付けるように、既習である折れ線の長さを求める場面を提示する。
	1	○「きょり」を知り、地図上の家から目的地までの道のりと距離の差の求め方を考える。	○道のりと距離の差の求め方に気付けるように、道のりの部分を赤、距離の部分を青で塗る学習プリントを用意する。
	1	○地図上の建物間の道のりや距離、その差を求める。	○加減法を用いて正確に道のりや距離、その差を求められるように、いろいろな建物とその道のりが記述された地図を用意する。
まとめる・生かす	1	○1mの長さを確認し、校庭を歩いて100mや1kmの長さ確かめる。	○長さの量感を捉えようとするができるように、1歩の長さを測定する活動を設定する。
	2	○身の回りのいろいろな長さを測定する。	○測定する対象に応じて単位や計器を進んで使い分けられるように、トイレトペーパーの芯や教室の縦の長さ、ノートの長さ、机の高さ、鉛筆の長さなどを例示する。
	1	○まとめのテストを行う。	
【備考】 ・用語・記号 「道のり」「きょり」「km」「1km=1000m」 ・学校の周りの絵地図を用いる際には、1cmを100mとしたものが扱いやすい。 ・校門より南1km地点は、中央前橋駅付近である。500m地点を調べて往復1kmでもよい。 ・体育の幅跳びの測定と関連させるとよい。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇長い長さや曲がった長さの測り方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言③>

◇cm単位まで正確に測定している。<ノート①>

◇加法を用いた道のりの求め方を記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>

◇距離はどんな道のりよりも短いことを記述している。<ノート②>

◇正確に道のりや距離、その差を求めている。<ノート①>

◇友達と協力して、進んで長さを測定しようとしている。<行動③>

◇測定する対象に応じて単位や計器を使い分け、進んで長さを測定している。<ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>

単元	12 分数		12月(13時間)
目標	分数の意味や表し方, 同分母分数の大小比較や加減計算の仕方を考え, 進んで生活や学習に活用する。		【指導事項: A(6)ア(ア)(イ)(ウ)イ】
評価規準	(①知・技) 分数の意味や表し方, 同分母分数の大小比較や加減計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 単位分数を基に, 分数の表し方や, 同分母分数の大小比較や加減計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 分数を用いて数量を表すことよき気付き, 活用しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○1mのリボンを3等分した1つ分の長さや1mとあと少しはしたのあるリボンのはしたの長さを考え, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて はしたの大きさの分数の表し方を考えよう	○はしたの大きさの分数の表し方に関心をもてるように, 切ったり折ったりできる1mと1m33cmほどの紙テープを用意する。 ◇はしたの大きさの分数の表し方について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・行動③>
解決していく	1	○2/3mの意味を知り, 等分してできる部分の長さやかさを分数で表す。	○様々な等分してできる部分の長さやかさを分数で表せるように, 等分されたテープ図やしますの図を例示する。 ◇長さやかさを正確に分数で表している。 <ノート①>
	1	○1mよりも長いリボンの端数部分の長さの表し方を考える。	○端数部分の長さともとなる1mの関係に気付けるように, 5/4mのリボンを5等分したテープ図を提示する。 ◇1mを4等分したうちの1つ分が1/4mだから端数分の長さは1/4mになることを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○1mよりも長いリボンの長さの表し方を考える。	○1mよりも長いリボンの長さを分数で表せるように, 等分された数直線やテープ図を提示する。 ◇単位分数が幾つ分として全体の長さを記述している。 <ノート①>
	1	○4/10mと7/10mの大小比較の仕方を考える。	○分子の大きさによって同分母分数の大きさが決まることに気付けるように, 1目盛りが1/10である数直線の拡大図を提示する。 ◇数直線を用いて大小比較の根拠を記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○0.8と7/10といった, 小数と分母が10の分数の大小比較の仕方を考える。	○小数または分数に変換できる根拠に気付けるように, 数直線と「0.1=1/10」を提示する。 ◇変換した小数(分数)は1/10(0.1)の幾つ分であることを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○3/8L+4/8Lの計算の仕方を考える。	○同分母分数の加法計算の仕方に気付けるように, 1目盛りが1/8の数直線やしますの図を提示する。 ◇1/8Lの3つ分と4つ分をたせばよいことを記述している。 <ノート②>
	1	○5/6L-3/6Lの計算の仕方を考える。	○同分母分数の減法計算の仕方に気付けるように, 1目盛りが1/6の数直線やしますの図を提示する。 ◇単位分数を基に, 分子同士をひけばよいことを記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言①>
	2	○同分母分数の加減計算の練習をする。	○同分母分数の加減計算を正確にできるように, 長さやかさの場面でいろいろな数値の問題を提示する。 ◇正確に和や差を分数で表している。 <ノート①>
・ま生とかめする	2	○1mの長さに印の入った8/7mや9/8mのリボンのはしたの長さを考える。	○進んで分数を用いて長さを表そうとすることができるよう, ペアで1枚の8/7mや9/8mの紙テープを用意する。 ◇進んで紙テープを折ったり線を書き入れたりしている。 <紙テープ③>
	1	○まとめのテストを行う。	◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「○分の△」「分数」「分母」「分子」「1/10の位」			

単元	13 三角形と角		12月(10時間)
目標	二等辺三角形や正三角形の意味や特徴について考察し、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：B(1)ア(7)(1)イ】
評価規準	(①知・技)二等辺三角形や正三角形の意味や性質を理解している。 (②思・判・表)構成要素に着目して、三角形を考察している。 (③主体的態度)二等辺三角形や正三角形に関心をもち、コンパスや定規を用いて作図をしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○棒磁石でいろいろな三角形をつくり、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて いろいろな三角形の特徴を調べよう	○二等辺三角形や正三角形などの三角形に関心をもてるように、長さの違う3種類の棒磁石を複数用意する。
解決していく	1	○いろいろな三角形の辺の長さを確かめ、「二等辺三角形」「正三角形」を知り、いろいろな三角形から二等辺三角形と正三角形を弁別する。	○二等辺三角形と正三角形の弁別の根拠に気付けるように、「等しい辺の長さの数」という視点を提示する。
	1	○コンパスとものさしを用いて、二等辺三角形や正三角形を作図する。	○いろいろな二等辺三角形や正三角形を作図できるように、いろいろな辺の長さを提示したり、二等辺三角形を斜辺から作図する方法を例示したりする。
	1	○円の中に、二等辺三角形や正三角形を作図する方法を考える。	○円の性質を用いた、二等辺三角形や正三角形を作図する方法に気付けるように、前時に作図した際のコンパスの印を円になるまで延長したものを例示する。
	1	○2枚の三角形を組み合わせた二等辺三角形の作り方を考える。	○二等辺三角形になる三角形の組み合わせ方に気付けるように、直角三角形・二等辺三角形・正三角形などの三角形カードを複数用意する。
	1	○「角」を知り、底辺の長さが等しい2つの二等辺三角形や相似な三角定規の角を比較する。	○角の大きさは、1つの頂点から出る2つの辺の開き具合によって決まることに気付けるように、教師用の三角定規と子どもたちのもつ三角定規を並べて提示する。
	1	○二等辺三角形や正三角形を切ったり折ったりして、二等辺三角形や正三角形の角の特徴を見付ける。	○二等辺三角形や正三角形の性質に気付けるように、いろいろな二等辺三角形や正三角形のカードを用意する。
まとめかき	2	○合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた模様作りをし、使った三角形が2枚の場合、3枚の場合などのときにできる模様の特徴を見付ける。	○平面の広がりやできる模様的美しさに気付けるように、図形カードやICT機器を使って子どもたちが作った模様を黒板に提示する。
	1	○まとめのテストを行う。	
評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇二等辺三角形や正三角形などの三角形についての疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③> ◇二等辺三角形(正三角形)である根拠として、等しい辺の長さが2つ(3つ)と記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇いろいろな二等辺三角形や正三角形を作図している。 <ノート①> ◇円の中に見付けた三角形が二等辺三角形(正三角形)である根拠を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇合同な直角三角形を組み合わせればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇二角の大きさは、1つの頂点から出る2つの辺の開き具合によって決まることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇二等辺三角形の2つの角の大きさは等しいことを記述している。 <ノート②> ◇進んで模様を作ったり、できた模様の特徴を記述している。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>			
【備考】 ・用語・記号 「二等辺三角形」「正三角形」「角」 ・棒磁石はカリ管室にある。また、3種類の長さのストローセットもカリ管室にあるので、活用するとよい。			

単元	14 重さの単位		1・2月(11時間)	
目標	重さの単位の関係や測定の意味を理解し、重さに応じた単位を用いて簡潔に表し、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：C(1)ア(ア)(イ)イ】
評価規準	(①知・技) 重さの単位「g」「kg」「t」の関係や測定の意味を理解している。 (②思・判・表) 長さやかさなどの量の考えを基に、重さを簡潔に表す方法を考えている。 (③主体的態度) 重さを調べることに興味をもち、重さを比べたり、量に応じた単位を用いて重さを測定したりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○「重さ比べゲーム」をして、重さの順位の付け方を考え、単元のためあてをつかむ。 単元のためあて 重さをはっきり比べる方法を考えよう	○重さの比べ方に関心をもてるように、実際に持って比べる糊・テープ・はさみ・乾電池を用意する。	◇重さの比べ方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○4つの物の重さについて天秤を使った順位の付け方を考える。	○天秤を使って4つの物の重さを判断できるように、天秤の使い方と重さの判断の仕方を例示する。	◇天秤を使って、正確な重さの順位を記述している。 <ノート①>
	1	○重さの差の表し方を考える。	○任意単位を用いればよいことに気付けるように、天秤と複数のフィルムケースを用意する。	◇基にするものの何個分かで表せば差を表せることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○クラスの中から自分の消しゴムと同じくらいの重さの消しゴムの見付け方を考え、普遍単位の「1g」を知る。	○普遍単位を用いた重さの表し方に気付けるように、複数の1円玉を用意し、「1円玉の重さ=1g」を提示する。	◇1gの幾つ分として、自分の消しゴムの重さを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○1kg秤の使い方を知り、いろいろな重さを測定し、1000g=1kgの関係を知る。	○1kg秤を使って正確に重さを測定できるように、筆箱、教科書、ノートなど、身の回りにある物を提示する。	◇「g」を用いて、正確に重さを表している。 <ノート①>
	1	○2kg秤、4kg秤の目盛りの読み方や1目盛りの大きさを考える。	○2kg秤、4kg秤を使って測定できるように、約1500gのサーキュレーターや、約2500gのコードリールなどを用意する。	◇2kg秤、4kg秤を使って、正確に重さを表している。 <ノート①>
	1	○皿に入った物の重さの求め方を考える。	○皿の重さを測定して引けばよいことに気付けるように、皿の重さを提示する。	◇全体の重さから皿の重さを引けばよいことを記述している。 <ノート②>
	1	○1000kg=1tの関係を知り、「g」「kg」「t」の単位の関係を考える。	○単位換算表を使って正確に単位換算ができるように、4kgや2kg300gなどの重さを「g」を用いて表す問題を提示する。	◇「kg」で表された重さを、「g」を用いて正確に表している。 <ノート①>
まとめる	1	○いろいろなものの重さの見当を付け、対象に応じて使う秤を選び、測定する。(B)	○重さに応じて適切な計器を選ぶことができるように、1kg秤、2kg秤、4kg秤を使って測定する時間を確保する。	◇重さの見当を基に、秤を選んで測定している。 <ノート①>
	1	○学校内にあるもので、決められた重さをつくる「重さつくりゲーム」を行う。	○進んで身の回りの重さを予想しようとすることができるように、鉛筆削りやプロッキーなどの重さを例示する。	◇進んで物の重さの予想を記述している。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。
【備考】 ・用語・記号 「g」「kg」「1kg=1000g」「t」「1000kg=1t」 ・準備物 天秤、1・2・4kgの台ばかり(カリ管室)、1円玉1000個(算数科準備室) ・お金の取り扱いには十分に注意する。 ・(B)・・・使用教材：台ばかり、短冊 活動内容：台ばかりを用いた重さの読み方を考える。 プログラミング的思考：台ばかりを用いた重さの読み方を分解すること				

単元	15 □を使った式		2月(7時間)	
目標	未知数を□として、□を用いて数量関係を式に表し、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(7)ア(ア)イ】	
評価 規準	(①知・技) 未知数を□としたときの式への表し方や、□にあてはまる数の求め方を理解している。 (②思・判・表) □を用いて、未知数を含む数量関係を捉えている。 (③主体的態度) 未知数を□として表した式のよさを知り、進んで□を用いようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」				
つかむ	1	○朝のひよこの数と夜のひよこの数から昼に増えたひよこの数を考え、単元のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 単元のめあて □を使った式の表し方を考えよう </div>	○□を使った表し方に関心をもてるように、ひよこカードを複数用意する。	◇□を使った式の表し方についての疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○はじめにあった折り紙から8枚使ったら残りが16枚になったという場面において、□を用いた式の表し方や□にあてはまる数の求め方を考える。	○□を用いた式の表し方に気付けるように、折り紙の数を記入する線分図を提示する。	◇線分図を基に、 $\square - 8 = 16$ になることを記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○同じ値段のあめを6個買ったなら、代金は42円だったという場面において、□を用いた式の表し方や□にあてはまる数の求め方を考える。	○□にあてはまる数の求め方に気付けるように、□を用いた加法の式の際には減法を、□を用いた減法の式の際には加法を用いて□にあてはまる数を求めることを例示する。	◇□を用いた式が乗法の際には、除法を用いて□にあてはまる数を求めればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○クラスの人を6つの班に分けたら5人ずつになったという場面において、□を用いた式の表し方や□にあてはまる数の求め方を考える。	○□を用いて式に表すよさに気付けるように、「文章の流れ」という視点を提示する。	◇□を用いることで文脈どおりに数量関係を式に表すことができるというよさを記述している。 <ノート②>
	1	○□を含むいろいろな加減乗除の式から、□にあてはまる数を求める。	○□にあてはまる数を求められるように、□を含むいろいろな加減乗除の式を提示する。	◇□にあてはまる数を求めて記述している。 <ノート①>
・ま生とかめする	1	○グループごとに、ひよこや折り紙、あめなどからテーマを決め、未知数を含む加減乗除の話を考え、発表する。	○未知数を含む加減乗除全ての場面を進んで考えられるように、4人グループをつくり、加減乗除それぞれの話の担当を決めて作るというルールを設定する。	◇□を含む話を進んで記述している。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・「まとめる・生かす」過程で作った話は、テープ図や式とともに画用紙に書かせて、教室や廊下に掲示するとよい。				

単元	16 2けたの数をかける計算		2月(11時間)	
目標	2, 3位数に2位数をかける乗法の計算の仕方を考え, 進んで生活や学習に活用する。		【指導事項: A(3)ア(7)(1)(ウ)イ】	
評価規準	(①知・技) (2, 3位数)×(2位数)の乗法の計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 乗法の性質や分配法則を基に(2, 3位数)×(2位数)の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) (2, 3位数)×(2位数)の乗法に関心をもち, 進んで計算しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○「じゃんけんゲーム1」において, クラス全体の点数の求め方を考え, 単元のめあてをつかむ。(※) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">かける数が2けたのときのかけ算の仕方を考えよう</div>	○乗数が2桁の乗法に関心をもち, じゃんけんの勝ち手に応じた得点を設定する。 ○乗数が2桁の乗法に関するルールを含めた「じゃんけんゲーム1」という活動を設定する。	◇乗数が2桁の乗法について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○4×30のような, (1位数)×(何十)の計算の仕方を考える。	○乗数を10倍すると積も10倍になることに気付けるように, 3のまとまりと30のまとまりを囲んだ4×3と4×30の場面を提示する。	◇乗数が何十の際は, 十の位の数をかけた積の右に0を付ければよい根拠を記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○31×23のような, (2位数)×(2位数)の計算の仕方を考え, 筆算の仕方を考える。	○(2位数)×(2位数)の計算の仕方に気付けるように, 乗数を十の位と一の位の数に分けたさくらんぼ図を提示する。	◇乗数を十の位と一の位の数に分けて計算すればよいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○82×64のような, 部分積が3位数になる筆算の仕方を考える。	○部分積が3位数になる筆算の仕方に気付けるように, 前時の(2位数)×(2位数)の筆算を提示する。	◇乗数を十の位と一の位の数に分けて計算し, それぞれの積を位にそろえて書けばよいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○(2位数)×(2位数)の計算練習をする。	○(2位数)×(2位数)の計算を正確にできるように, 部分積が2位数や3位数になる数の混じった問題を複数用意する。	◇(2位数)×(2位数)の計算を正確にしている。 <ノート①>
	1	○214×34のような, (3位数)×(2位数)の筆算の仕方を考える。	○分配法則を基にした, (3位数)×(2位数)の筆算の仕方に気付けるように, (2位数)×(2位数)の計算の仕方を説明する活動を設定する。	◇(2位数)×(2位数)の計算の仕方と同様に, 乗数を十の位と一の位の数に分けて計算すればよいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○38×70, 4×78のような, (2位数)×(2位数)の工夫した筆算の仕方を考える。	○乗法の交換法則を活用するよさに気付けるように, (1位数)×(1位数)に交換法則を用いた場合を例示する。	◇乗法の交換法則を基にすれば, 簡単に筆算できることを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
まとめを生かす	2	○乗法の筆算の虫食い問題に取り組んだり, 虫食い問題を作って友達と解き合ったりする。	○(2位数)×(2位数)や(3位数)×(2位数)の計算の仕方を進んで考えられるように, 欠位が6~9ある(2位数)×(2位数)の乗法の筆算を例示する。	◇進んで欠位に当てはまる数を書いている。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・計算練習をする際には, 問題づくりを取り入れると意欲的に追求できる。				
(※) について 「じゃんけんゲーム1」とは, 勝ち手がグーで8点, チョキで10点, パーで14点(例)取れるとし, 3人組でじゃんけんをして1番勝ちと2番勝ちが得た点をクラス全体で合計して求めるという活動である。ゲームの回数や勝ち手の点数などは, 実態に応じて柔軟に決められるとよい。				

単元	17 倍とかけ算, わり算			3月(6時間)
目標	比較量や基準量を求めるときに用いられる計算について考え, 進んで生活や学習に活用する。			
評価 規準	(①知・技) 比較量を求めるときに乗法, 何倍かを求めたり, 基準量を求めたりするときに除法が用いられることを理解している。 (②思・判・表) 数量の関係に着目し, 乗除法の意味を考えている。 (③主体的態度) 基準量, 比較量, 倍を求めるときに, 乗除法が用いられることに関心をもち, 進んで乗除法が用いられる場面を見付けようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○倍を含む問題作りを行い, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 倍の計算について考えよう	○倍を含む計算に関心をもてるように, 「赤のテープの長さは15cmです」のあとに続く文章について話し合う時間を確保する。。	◇倍を含む計算についての疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言③>
	1	○15cmのリボンの3倍の長さを求め方を考える。	○比較量を求めるときに乗法を用いることを理解できるように, 「4こ入りのパンの2倍は何個ですか」という問題場面を提示し, 本時の問題場面との共通点について話し合う時間を確保する。	◇幾つ分を求めるときは, 乗法を用いればよいことを記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○12cmのリボンは2cmのリボンの長さの何倍かを求め方を考える。	○2つの数量の関係を捉えられるように, テープ図を提示する。	◇テープ図を用いて, 倍を求めるときは除法を用いることを記述している。 <ノート②>
1	○あるテープの4倍にあたるテープの長さが12cmの場面において, 基のテープの長さの求め方を考える。	○基準量を求める場合も除法が用いられることに気付けるように, 前時の問題との共通点と相違点について話し合う時間を確保する。	◇倍と基準量を求めるときに除法を用いることを記述している。 <ノート①>	
・ま 生と かめ する	1	○倍, 基準量, 比較量を求める問題を作り, 解き合う。	○倍, 基準量, 比較量を求める問題を作ることができるように, 「赤のテープは, 15cmです」というはじめの文章と, 前時までに扱った問題場面を提示する。	◇進んで問題をつくり, 倍, 基準量, 比較量を求める問題になっていることを確かめている。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号				

単元	そろばん			3月(7時間)
目標	そろばんによる数の表し方を知り、そろばんを用いた簡単な加減計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：A(8)ア(ア)(イ)イ】
評価 規準	(①知・技) そろばんを用いた数の表し方や簡単な加減計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) そろばんによる数の表し方を基に、加減計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) そろばんのよさが分かり、そろばんを使って進んで計算しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○そろばんの各部分の名称を知り、入れた数を読んだり、数を入れたり払ったりして、単元のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 単元のめあて そろばんを使って計算できるようになろう </div>	○そろばんの使い方に関心をもてるように、各部分の名称を書き入れるそろばんの拡大図を提示する。	◇そろばんについての疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決 して いく	1	○入れた数を読んだり、数を入れたり、払ったりする練習をする。	○そろばんを用いて数を正確に表せるように、教師用のそろばんやICT機器を用いてそろばんの操作を演示する。	◇そろばんを用いて、数を正確に表している。 <そろばん①>
	1	○4+2や6-2, 4+7や11-7などの加減計算の仕方を考える。 ※ 4+2=(4+5)-3 ※ 6-2=(6+3)-5 ※ 4+7=(4-3)+10 ※ 11-7=(11-10)+3	○5や10の合成、分解を伴う加減計算の仕方を捉えられるように、「五だま」や「十だま」を視点として提示する。	◇五だまや十だまを操作しながら、運珠の仕方を発言している。 <発言②>
	1	○7+6や13-6などの加減計算の仕方を考える。 ※ 7+6=(7+1-5)+10 ※ 13-6=(13-10)+5-1	○5と10の分解、合成が組み合わさる加減計算の仕方を捉えられるように、前時の加減計算の運珠の様子を演示する。	◇5と10の分解、合成の順に計算の仕方を記述している。 <ノート②>
	1	○2万+6万や7.2-3.4などの大きな数や小数の加減計算の仕方を考え、練習する。	○そろばんを使って正確に加減計算できるように、そろばんの定位点や各位の位置を提示する。	◇そろばんを使って正確に加減計算をしている。 <行動①>
・ま 生と かめ する	2	○そろばんを使って、1~10までの数の和を求めたり、繰り上がりや繰り下がりのある場合の加減計算の練習をしたりする。	○そろばんを使って進んで計算しようとしてできるように、繰り返し練習する時間を確保したり、ストップウォッチで和を求めるまでの記録を測定したりする。	◇そろばんを使って、進んで加減計算をしている。 <行動③>
【備考】 ・そろばんは、算数準備室にある。 ・用語・記号 「そろばん」「わく」「はり」「けた」「定位点」「一だま」「五だま」「位取り」				